

株式会社 大翻

事業者紹介

1981年に婦人服アパレル会社として創業した株式会社大翻。2代目社長・後藤裕一さんへの代替わりをきっかけに、トレンドや流行に左右されるアパレル商品ではなく、物の本質を見つめたエコな暮らしを提案できる商品を企画・提案する企業へとシフトチェンジ。「商品を気に入って買ってもらった結果、実はそれが世の中のためになっていた。そんな商品を作りたい」という考え方のもと、使い心地にこだわったシルク製品を扱うブランド「絹屋」や、日本伝統の素材「高島ちぢみ」を使ったルームウェアのブランド「涼綿」などを展開しています。

2020年には千種区にある「星が丘テラス」に、日本の伝統素材や製法を生かした衣類・雑貨や、東南アジアやインドなどから輸入されたフェアトレード商品などを販売するショップ「ほほほ」を出店。店内には作り手や思いが「見える」商品が並び、アップサイクル商品も多く取り扱っています。



「ほほほ」の店舗外観

アップサイクルへの取組のきっかけ

株式会社大翻では社会課題の解決策の一つとして、自社内で過剰包装をなくす、再生紙を利用するなどの取り組みを実施してきました。しかしさらに「本業のアパレル事業を通して、環境や人権の問題解決につなげることはできないか」と考えた結果、「ほほほ」の出店と同年の2022年にアップサイクルブランド「poco up poco（ポコ アップ ポコ）」を創出。ブランド名はイタリア語で「少しずつ」の poco a poco に由来し、「いらなくなったものを欲しいものへ変えていくアップサイクルの取り組みが、少しずつでも世の中に広がっていくように」という思いが込められています。



プラスチックごみを洗浄・裁断・熱圧着したプライシクルシート。

ブランドでは、フィリピンのビニールごみを洗浄・裁断・熱圧着した「プライシクルシート」を使用したバッグ・小物や、

国内靴下工場の残糸を利用した靴下、農作物に被害を与えるため駆除された鹿の革を使ったバッグなどを企画・販売しているほか、「ほほほ」では東南アジアで排出された破棄されるはずのセメント袋など産業資材を再利用したバッグ等も取り扱っています。



ボトル内はプライシクルシートになる前のビニールごみ。



プライシクルシートを使ったサコッシュ（肩掛けバッグ）

同社では「少しずつでもアップサイクルについて知ってもらい、アップサイクルで生まれたものを使ってもらうことが未来に変化を生み出すはず」と考えています。



駆除された鹿の革を使ったバッグ

販売先について

ほほほ

名古屋市千種区星が丘元町 16-50

星が丘テラス WEST 1F

TEL 052-783-7117

<https://www.hoshigaoka-terrace.com/shop/hohoho>

株式会社 大醐

〒462-0845 名古屋市北区柳原 2-8-3

TEL 052-915-5080

<https://daigojapan.jp/>